

Book Review



コンポジットレジン修復の 発想転換

田代浩史 著



Reviewer

熊谷真一 Shinichi Kumagai
(静岡県・くまがい歯科クリニック)

A4 判変, 180 頁
オールカラー
定価 (本体 9,600 円+税)
医歯薬出版刊



著者である田代浩史先生と私は同郷の浜松市出身である。浜松は興味深い街で、古くからスタディ・グループ活動が盛んであり、多くのこだわりをもつ臨床家が輩出されてきた。現在でも、ペリオ、インプラントで世界的に名を馳せている先生もいれば、摂食嚥下や総義歯の大家、在宅でとても頑張っている先生方など、広い分野で尊敬すべき先生が身近に存在する。このような土壌があるからなのだろうか、田代先生もこの街で生まれた。

田代先生は東京医科歯科大学 齶頤制御学分野 田上順次教授の元でコンポジットレジン修復のコンセプト、エビデンス、テクニックを磨き、高めてきた。田上教室は、理想論ではなく臨床に関連した研究テーマを優先し、臨床現場の感覚が重視され、また材料学と生物学との両面からのアプローチが確立されている。

齶頤に対する理解が深まったこと、接着および材料の向上、フロアブルコンポジットレジン の出現によって、保存修復の概念は変化し、まさに今日ま

で目覚ましく進化してきた。その結果、コンポジットレジン は、単なる窩洞修復材料から、1 口腔単位での治療計画のなかで、積極的かつ歯質保存的な審美修復材料として、またその臨床術式をシンプルにするための治療オプションとして、臨床のなかで関わらない日がないほど、適応が大きく広がっている。

しかし、どの程度まで適応が可能なのか、また審美性はどこまで追求できるのか、ボーダーラインが混沌としているように感じる。このようななかで田代先生は、現在のコンポジットレジン の臨床的特徴を踏まえたうえで、1 つの臨床的ボーダーラインを示してくれた。

発想転換に至るコンポジットレジン 修復の臨床的特徴としては、本書の最初に紹介されている、歯質接着性が天然歯のエナメル-象牙質境の接合状態を上回るというデータであろう。これによって、外胚葉由来であるエナメル質が失われ、象牙質が露出しても、高い接着力をもつコンポジットレジンで、

多くの切削を必要とせずエナメル質を人工的に回復することが可能となった。さらに材料の機械的強度、耐摩耗性の向上によって、経過のなかでの長期耐久性も実感できるようになった。

本書では、このような特徴を必要十分に紹介したうえで、まずは臼歯部、前歯部のコンポジットレジン修復に対して、その使用器具やコンセプトも交えてわかりやすく解説している。さらに正中離開、破折歯、ホワイトニング、ダイレクトベニア、ダイレクトクラウン、ダイレクトブリッジ、メインテナンスまで、幅広い臨床例が、術式から経過まで丁寧に網羅されている。

発想転換のなかでこのような臨床応用も可能なのかと目を見張る症例もあり、また健全歯牙をできるだけ温存し、術者と患者がともに継続的な修復物の維持管理を続けていく著者の姿勢も窺える。明日の臨床からすぐに応用したくなる、まさにチェアサイドに置いておきたい 1 冊であろう。